

解剖法歯学分野（歯学研究Ⅱ～Ⅳ）の紹介

はじめに

医療に携わる者にとって、人体の構造を知ることの意義は言うまでもありません。歯科領域の基本的な診療に必要なのは当然として、全身管理や外科処置全般においても解剖学の知識は必須です。時として、その場の判断や処置が患者さんの命を左右することもあります。2、3年生にはピンと来なくても、臨床系科目を学んでいる4、5年生にはこの意味がよく分かるはずです。

解剖法歯学分野は、学部教育としては全身の系統解剖学と歯の解剖学を担当していますが、研究面では顎顔面領域を対象として臨床解剖学的な視点に立った調査研究を進めています。

歯学研究Ⅱ～Ⅳでは、そうした研究の一端に触れながらも、履修学生として自分の**興味ある部位をじっくりと剖出・観察する機会**を提供します。原則として将来に備えて頭頸部の構造を徹底的に理解することを推奨しますが、逆に卒業後は向き合うことの少ない胸腹部を観察するのもよし、あるいはスポーツ医学に関係する四肢の関節を調べることも可能です。ヒトの体ほど身近で、また遠い存在はありません。改めて人体に直接触れて観察することによって、時間に追われながら義務感で行ったであろう2年次の解剖実習とは異なる剖出を体験してみてください。

興味のある学生にはヒト以外の哺乳類の解剖や3Dプリンタを用いた骨模型の作成なども体験できるように準備しています。

構成メンバー

教授（田松裕一）、助教（下高原理恵）の教員2名
事務員（選任中）1名
大学院生（東 幸浩、Harun Rashid、李 慧瑛、Aznin Asha）4名
客員研究員（緒方重光、峰 和治（予定））2名
研究生（園田真也）1名

研究内容

● 顎顔面口腔領域の形態学的研究

口腔領域の手術に伴う偶発症を予防するための顎骨周囲の血管・神経の形態学的研究、表情筋の筋層構造と加齢に伴う顔面皮膚の形態変化（シワ）に関する研究、顎骨の形態と生体力学（田松）、舌神経の分枝と分布域の研究（峰、下高原）などを行っています。さらに、眼科領域の涙道に関する臨床解剖学的な研究により、涙液排出のメカニズムや涙道手術のための安全で効果的な麻酔法の検討などを行っています（研究生）。

歯学研究の活動内容

ヒトを含む生体の構造に興味を持つ2～4年生を対象に、以下のような内容を用意しています。

- **解剖学復習**：2年次に十分学習できなかった内容を骨標本や頭頸部人体標本を用いて改めて勉強する【図1】。2年生の解剖実習に参加して後輩と共に勉強することも可能。
- **肉眼解剖研究**：顎顔面口腔領域もしくは興味ある部位を徹底的に剖出・観察し、機能との関連を考察する。例：咀嚼筋の起始・停止、支配神経を再確認して咀嚼運動との関係を理解する【図2】。
- **骨学模型作成**：分離骨を撮影したエックス線CTのデータを用いて3次元の骨形態ファイルを作成し、3Dプリンタで自分だけの骨標本を作成して詳細な構造を理解する。コンピュータの操作や画像処理の知識が求められる。【図3】
- その他：歯学研究を含む共同研究で得られた新発見や珍しい所見を解剖学会の学生セッション等で発表した先輩がこれまでに3組います（旅費は研究室で負担）。また、研究室のイベントへの参加も歓迎します。

歯学研究説明会の開催

日時：令和7年4月16日（水）13：30～

場所：研究棟7階 解剖法歯学分野

Mail：kaibou02@dent.kagoshima-u.ac.jp

Tel：099-275-6112

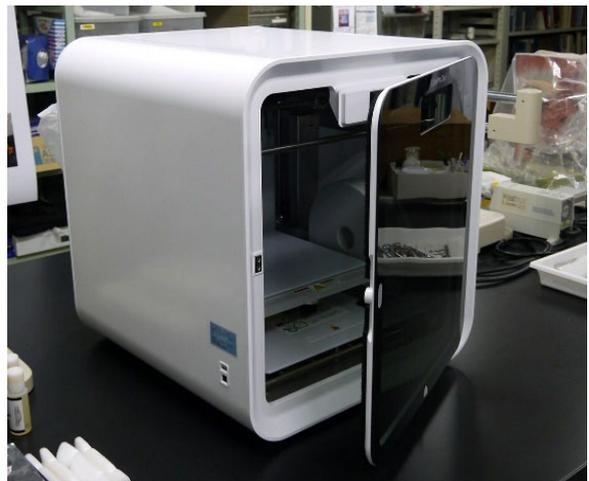
※ 説明会以外でも研究室で随時質問を受け付けています。



【図1】ゼミ活動の様子
頭頸部標本を観察して知識を確認中



【図2】咀嚼筋の剖出
下顎頭、外側翼突筋、関節円板



【図3】当分野所有の3Dプリンタ
3Dsystems社 Cube Pro®